

E-FIELD

Education For Implementing End-of-Life Discussion

STEP3

「本人の意思を推定する」

学習目標

- 本人の明確な意思が確認できないとき、意思を推定する方法を理解する
- 本人の意思が確認できないが家族等が本人の意思を推定できる場合に、本人の推定意思を尊重するための方法を具体的に説明できる
- 常に本人が意思を表出できる可能性はないかを確認する

学習目標

- 家族等が誰を指すものかを説明できる
- 家族等が本人の意向を推定できるようにエンパワメントすることができる
- 本人にとっての最善を考えるために、本人が固有に持つ価値観、人生観に関する情報を得ておくことの重要性を理解する

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」

意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。

心身の状態に応じて意思は変化しうるため
繰り返し話し合うこと

主なポイント

本人の人生観や価値観等、できる限り把握

本人や家族等※と十分に話し合う

話し合った内容を都度文書にまとめ共有

本人の意思が
確認できる

本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた、本人の意思決定が基本

人生の最終段階における
医療・ケアの方針決定

STEP3

・家族等※が本人の意思を推定できる

本人の推定意思を尊重し、
本人にとって最善の方針をとる

本人の意思が
確認できない

本人にとって最善の方針を
医療・ケアチームで慎重に判断

・家族等※が本人の意思を推定できない
・家族がいない

- ・心身の状態等により医療・ケア内容の決定が困難
- ・家族等※の中で意見がまとまらないなどの場合

→複数の専門家で構成する話し合いの場を設置し、
方針の検討や助言

※本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、話し合いに先立ち特定の家族等を自らの意思を推定する者として前もって定めておくことが重要である。

※家族等には広い範囲の人(親しい友人等)を含み、複数人存在すること考えられる。

意思を推定する

A 現時点での、本人自身の、直接的な言語表現



B 過去の、本人自身の、
直接的な言語表現

C 現時点での、本人自身の、
間接的な表現



D 過去の、本人自身の、間接的な表現

意思を推定する際の「明らかさ」と「妥当性」

	明らかさ	妥当性
A 現時点での、本人の、直接的な言語表現	明らか	高い
B 過去の、本人の、直接的な言語表現	明らか	かならずしも高くない
C 現時点での、本人の、間接的な表現	明らかではない	高いこともしばしば
D 過去の、本人の、間接的な表現	明らかではない	高くない

A.現時点での、本人の、直接的な言語表現

- 常に本人が自分自身の選好を何らかの形で表現できる機会はあると考える
- 合理的判断が可能な状況においてはもっとも強い根拠
- 自由な選好を何らかの形で表現できる環境を整える
- 誘導的な操作を行わない

B.過去の、本人の、直接的な言語表現

- Advance Care Planning
- 明記されたAdvance Directive
- メモや録音記録
- かかりつけ医の証言（やや間接的）
- 家族の証言（やや間接的）

C.現時点での、本人の、間接的な表現

- 侵襲的なケアの一時的な拒否は、誰でもある
 - － 身体拘束
 - － 吸痰の拒否
 - － 経鼻チューブの抜去
- 再現性を観察する
- 抑うつやせん妄などの影響について考慮する

D.過去の、本人の、間接的な表現

- 自由に対する考え方
- 死や、死にゆくことに関する考え方
- 医療や健康に対する考え方
- 医療や健康サービスへのアクセス
- 家族などから見た印象や理解
- 「延命治療」等のテーマに関するエピソード

本人の背景とナラティブ（人生の物語）

- 医療・ケアに対する見解
 - 医療・ケアに対する期待
 - 診療アドヒアランス※
- 文化的背景
 - 信仰
 - 伝統や家族内、地域内での慣習
- 人生観
 - 死生観
- 人間関係
 - 家族との関係
 - 友人や、近隣との関係
- 経済状態
 - 介護保険、年金
 - 生活の継続に対する不安

※診療アドヒアランス：
患者が積極的に治療・ケアの方針決定に参加し、その決定に従って自ら行動すること

家族の声：本人の最善利益の 査定において家族がもつ2つの役割

- 本人の声を代弁するもの
 - 「ご本人は、どのようにお考えだと思われますか？」
- 本人のことを大切に感じ、世話するものとしての意向を表現するもの
 - 「ご家族としては、どのようなお気持ちでしょうか？」

家族等とは

- 家族等とは、今後、単身世帯が増えることも想定し、本人が信頼を寄せ、人生の最終段階の本人を支える存在であるという趣旨ですから、法的な意味での親族関係のみを意味せず、より広い範囲の人（親しい友人等）を含みますし、複数人存在すること考えられます（このガイドラインの他の箇所使われている意味も同様です）

（出典）「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン 解説編」

家族であるために重要なこと

- 困ったときに助け合う 68.4%
- 精神的なきずながある 56.5%
- 互いにありのままでいられる 50.7%
- 血のつながりがある 50.3%
- 日常生活を共にする 37.7%

(出典) [国立社会保障・人口問題研究所「第5回全国家庭動向調査」](#)

まとめ

- 本人の意思を推定するにあたり、
 - 意思決定する力が不十分な状況にあっても、本人からの情報を得る
 - 「現在の」情報、「直接的言語表現」からだけでなく、「過去の」情報、「間接的表現」にも目を向ける
 - 本人の背景とナラティブを知ることが重要である
 - 「家族等」は本人の意思を推定し、代弁する役割がある